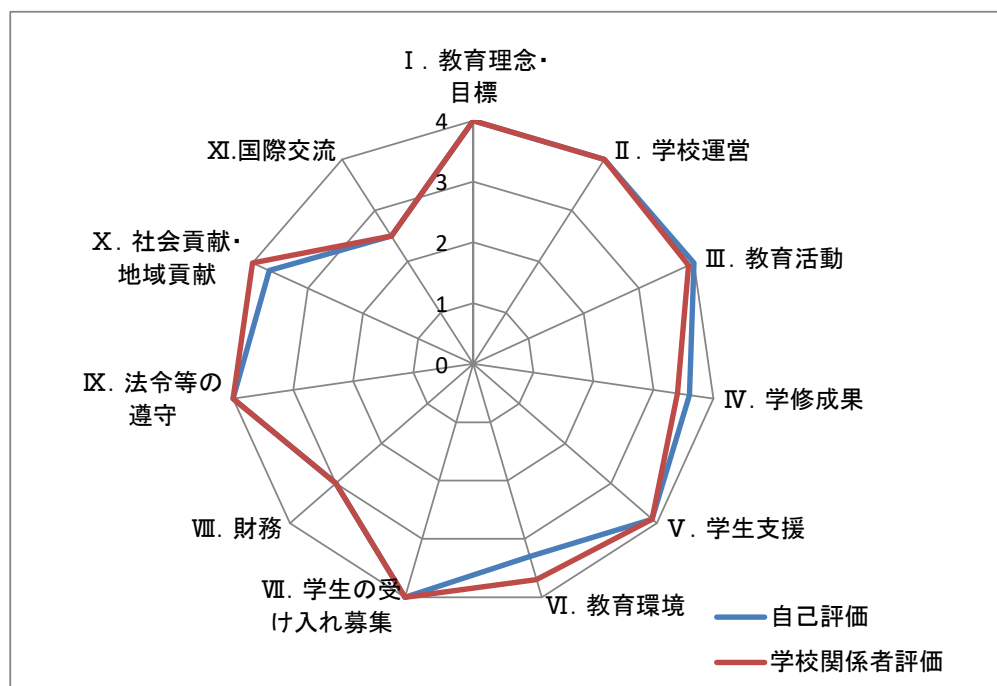


平成 28 年度 看護師養成所評価結果

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校

評価カテゴリー	評価内容の概要
I. 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像が定められているか、学校における職業教育の特色、将来構想が明確か、また、学生・保護者などへ周知されているかなどについての評価(小項目 5 項目)
II. 学校運営	目的、事業計画に沿った運営方針の策定、運営組織や意思決定機能が規則等において明確か、また、人事給与に関する制度の整備、コンプライアンス体制、情報公開などが適正におこなわれているかなどについての評価(小項目 8 項目)
III. 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方針等の策定、職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発、評価体制、指導体制、教員の確保などについての評価(小項目 16 項目)
IV. 学修成果	就職率の向上、資格取得率の向上、退学率の低減、卒業生・在校生の社会的な活躍および評価の把握などについての評価(小項目 5 項目)
V. 学生支援	進路・就職に関する支援体制、学生相談に関する体制、経済的支援体制、健康管理、課外活動に対する支援、生活環境の支援、保護者との連携などについての評価(小項目 10 項目)
VI. 教育環境	施設・設備についての整備、学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等についての教育体制の整備、防災に対する整備についての評価(小項目 3 項目)
VII. 学生の受け入れ募集	学生募集活動の適切な実施および成果について、学納金についての評価(小項目 3 項目)
VIII. 財務	中・長期的な財政基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開の体制整備についての評価(小項目 4 項目)
IX. 法令等の遵守	法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営、個人情報保護に対する対策、自己評価の実施と情報公開などについての評価(小項目 5 項目)
X. 社会貢献・地域貢献	学校の教育自然や施設を活用した社会貢献・地域貢献、学生のボランティア活動の奨励・支持、地域に対する公開講座、教育訓練の受託等についての評価(小項目 3 項目)
XI. 国際交流 (必要性に応じて)	留学生の受け入れ・派遣、学習成果が国内外で評価される取り組みについての評価。(小項目 4 項目) * 当校では積極的な受け入れはおこなっていない。



4: 適切
3: ほぼ適切
2: やや不適切
1: 不適切

平成28年度 養成所評価

【学校関係者評価総評】学校目標を年度初めに再設定し、年度の学生に応じた目標に向かって対応している。その目標に対し学力向上プロジェクト、看護観プロジェクト等が生まれ、経年別に計画している。特に演習が丁寧に構築されている。学校運営会議、実習指導者の講義への参加、合同就職説明会等により県内のNHO施設との連携が良く、県内就職率90%という結果に結びついている。卒業時の技術到達度を就職先に報告していることは有意義である。また学校関係者評価だけでなく、学校運営会議・実習指導者会議に県内のNHO施設の関係者を招いており、第三者による客観的な評価を受けられながら学校運営していることにより教育の質が担保されている。

	自己評価	学校関係者評価
I. 教育理念・目標	4.0	4.0
	国立病院機構の理念のもと、看護師に必要な知識・技術・態度を教授し、国立病院機構及び社会に貢献しうる有能な看護実践者を育成することを掲げ、目的・目標に向けて邁進している。	自校の評価通り
II. 学校運営	4.0	4.0
	目的・事業計画に沿った運営方針の策定、人事・給与に関する制度等について国立病院機構及び母体病院当校の規程が整備されるなど適切に運営されている。	自校の評価通り
III. 教育活動	4.0	3.9
	教員は、研修等の参加後、伝達講習を実施し学びの共有および教育実践に活用できるよう努力している。今年度は学校が一丸となり、学生の思考を深めるよう実習指導方法や、授業の改善に取り組んでいる。研究助成金システムなど教員の研修・研究に対する体制が整っている。	学校目標に対し、学力向上プロジェクト、看護観プロジェクト等が生まれ、経年別に計画されている。特に演習が丁寧に構築されている。例えば基礎実習前に講義で学んだことと実習で行うことの乖離を埋めるような実践に即した演習がされている。教員の研修・研究成果を教育実践に活用している。
IV. 学修成果	3.6	3.7
	就職や国家試験対策などの資格習得率の向上に向けた取り組みをおこなっている。卒業生の卒後の状況については機構病院では情報交換をおこなっている。今後、学校主催のカミングホームデイが実施できるよう計画する。	国立病院機構への就職率は今年度84.2%と若干減少しているが、県内就職率は90%であり素晴らしいといえる。しかし、国家試験合格率は全国合格率は上回っているものの改善を要す。今年度より学力向上プロジェクトが計画されているため、次年度実施し、評価・修正がのぞまれる。
V. 学生支援	3.9	4.0
	進路指導、学生相談などの支援、健康管理、奨学金および教育給付金などの経済支援を積極的におこなっている。	県内国立病院機構5施設と連絡を取り合いながら卒業生の把握をしている。キャリアアップへの支援や研究活動支援等の体制が必要である。職業実践専門課程認定を受け、学生をサポートする体制が整えられている。
VI. 教育環境	3.3	3.7
	施設設備の整備、教材教具および図書などについては計画的に購入し、学習環境を整えている。しかし、災害時に対応できるような準備、体制づくりが必要である。	自校の評価通り
VII. 学生の受け入れ募集	4.0	4.0
	幅広く募集活動は継続しており、見学者は増加しているが応募者は増加していない。神奈川県下に学校が多数設置され、競争が激化しているため、学生確保および魅力ある学校づくりの対策が必要である。	学生確保が困難な立地条件にある中で、募集活動に様々な工夫がなされ、学校説明会で500人もの参加者を獲得していることは受験生の減少の歯止めにつながっている。
VIII. 財務	3.0	3.0
	運営費交付金が削減され、神奈川県からの補助金交付の申請を行っているが安定的な財源確保に至っていない。	自校の評価通り
IX. 法令等の遵守	4.0	4.0
	指定規則を遵守し運営しているまた、学校の自己評価をおこないホームページ上で公開している。個人情報保護について学生に指導継続している。	自校の評価通り
X. 社会貢献・地域貢献	3.7	4.0
	地域に対する公開講座など計画的・積極的に実施している。今後、学生の自治会を通じてボランティア活動の奨励を継続する。	自校の評価に加え、教員が出張講座に出向いていることは社会貢献に値する。
XI. 国際交流	2.5	2.5
	留学生を受け入れるための教員確保は困難であり、現状として留学生の受け入れは困難である。	自校の評価通り

学校関係者評価委員会 出席者 (第1回:平成29年7月25日 看護学校研究室にて開催)

委員長	横浜医療センター 副院長	鈴木 宏昌	事務局	学校長	平原 史樹
委員	国際医療福祉大学 小田原保健医療学部教授	吉村 恵美子		副学校長	萩原 一美
	(株)モリモリ みんなの訪問看護 リハビリステーション 代表取締役	森元 陽子		事務長	新井 秀一
	相模原病院看護部長	大草 由美子		教育主事	渡邊 真弓
	横浜医療センター看護部長	江原 くるみ		事務主任	佐野 浩士